mamapapa ヴィレッジの実施内容

それぞれの掲示板　より――

各部屋には応援隊とルームマネージャーを配置した。特に、mamapapa ヴィレッジの特徴としてコミュニティを意識した「おしゃべり cafe」と「お父さんのたまり場」では、内容の濃い交流が見られ、子育て中のママたちの悩みの解決が図られる場面をあちこちで見ることができた。
例えば――（以下の内容は、プライバシーを守るためにアレンジしたダイジェストです）

――「おしゃべり cafe」の掲示板で（右頁参照）―――以下、時系列で表示――――――――――――――――――――――――

■ケース①　いつも一緒に遊んでいる息子の友達は、息子に意地悪ばかりします。でも、相手のお母さんは特に注意をするわけでもなく、男の子なんだからそのぐらいは仕方がないという対応に困っている。暴力は危険だと思うし、どうしたらいいでしょう？

●この相談に対して、応援隊・ルームマネージャーや参加者から様々な書き込みがされた。

Ⓐ お母さんとの付き合いって難しいよね。（共感）
Ⓑ 子どもに聞いてみました。私はそんな出来事に気づいていなかった。（自分の気づき）
Ⓒ 自然と自分と気の合うママ＆子どもが集まるもんです。（?）
Ⓓ 私があなたの立場ならメチャ腹立ちます。（共感）
Ⓔ 彼の目を（同じ目の高さで）しっかり見つめて「どうしてしたの？」と言い続ける。（アドバイス）
Ⓕ 相手のお母さんに、彼がこんな行動をする理由があるはずと言ってみてはどうでしょう。（アドバイス）
Ⓖ あなたの気持ちや息子さんの状態を根気強く訴え続ける。（アドバイス）

■この段階で、初めの投稿者から、以下のようなレスがあった。（話をみんなに聞いてもらい、受けとめてもらえたことで、自分自身の答えの出し方をした。）
　　→主人とも話し合った結果、相手の親にしっかり言ったほうがいいと決め、言いました。

Ⓐあなたの勇気に涙出てきた。（励ましと共感）
Ⓑ一歩前へ歩けたね。（激励）
Ⓒ 拍手を送ります。（激励）
Ⓓ あなたが私だったらちゃんと言えるかどうか不安です。（同じ立場のママから）

コンピューターのモニターに見えるmamapapaヴィレッジ

スクロールすると掲示板のエリアが見えてくる

ルーム内のページメニュー上部のノッチをクリックすることで、他のページに移動できる

ヴィレッジのルームラインナップ

チャットエリア

12／22現在クリックカウンターは94248回

「おしゃべりcafe」の掲示板。mamapapaヴィレッジ開催中、いつもたくさんの人で賑わっていた。この書き込みの内の何名かは、応援隊のメンバーによる。右側のチャットも同様である。

ルーム「おしゃべりcafe」

■ケース②　あるママから、お父さんたちの意識を尋ねる質問として…

「私たち夫婦は、パートナーの意識を「協力」ではなく「一緒に子育て」とよく話しています。父親として、みなさんはこういう考え方をどのように思いますか？」

(A) 「“一緒に子育て”って話せる夫婦はいいですね。うちはママとパパではスタート時点がずれている。夫から子育ての醍醐味を奪い、独り占めしていたのでは……」（あるママからの気づき）

(B) 「一緒に子育て」は大事。1 年経ってもパパの存在が見えてこない家庭もある。

（展開して新たな疑問が投げかけられた）

→「子どもを生まない父親」がどうやって親になっていくの？　最初に“父親”を自覚した時は？

(C) 子どもを初めて入浴させた時。

(D) 誕生して、まだ名前もない状態で抱っこした時。

(E) 出産に立会い、へその緒を切った時。

■ケース③ 「日曜日になると主人は黙ってギャンブルに行ってしまう。主婦は 24 時間労働なのに…」

(A) 怒りたくなるよね。（共感）

(B) 問い詰めたり、感情的にならずに冷静に話し合うことが大事だよね。（共感とアドバイス）

(C) 怒りをぶつけても相手は思うようにならないんですよね。（アドバイス）

(D) ママにもリフレッシュの時間は必要です。（視点の変更）

(E) 自分にご褒美の時間をあげてあげてくださいね。（アドバイス）

(F) 旦那さんもストレスや悩みがあるのかも。話を聞いてあげては？（視点の変更）

(G) ギャンブルに行く日時を話して決める。たまに遅れて帰っても大目にみてあげて。（アドバイス）

(H) ちょっと変わった趣味を持っている人なんだと思ってあげて。でも、金銭管理はしっかりと！

(I) 専業主婦の苦労って、夫にわかってもらえませんよね。

(J) 子どもを預けるのは育児放棄ではありません。またには、子どもを預けて息抜きを！

■【当事者から】→皆さんの意見を読みながら、考えてみて、

自分の思っている事を主人に話しました。少し楽になった気がします。

■ケース④　みなさんは、絵本とどんな関わり方してますか？

Ⓐ たくさんの絵本が身近にある環境にいることが大切だと思う。
Ⓑ 好きな絵本を子どもが起きている時間に読む。
Ⓒ 南向きの日当たりのいい場所に絵本棚を置いています。
Ⓓ 子どもが好きな絵本を持って、父の帰りを待っていたのを思い出しました。
Ⓔ 絵本日記をつけようと思ってます。
Ⓕ そばにいなくても子どもを聞いているので、読んであげるといいですよ。
Ⓖ 絵本は子どもの目線の所に置くと、遊びの中で自然に手を出しますよ。
Ⓗ お父さん、お母さんが好きな絵本作家を見つけると、絵本を選ぶのも楽しいですよね。

■ケース④　元気な子ども達についつい大きな声を出してしまいます。

Ⓐ 自分で思っていなくても、ついつい大きな声を出してしまいますね。パートナーに叱られます。
Ⓑ たまに、他人だと思うようにしています。
Ⓒ 同じだから、「わからなくちゃ。」「「なんで違うの？」と思ってしまうのかもね。
Ⓓ 夫婦もある程度、距離を確保するのも大切かも。
■→家族のことも自分のことも客観的に見る目を養おうと思いました。書き込みを（自分の思いを文章に）する事によって、自分の問題・気持ちを再確認しました。
Ⓔ 手紙を書いたりすると、自分を冷静に見つめることができます。
Ⓕ 書くこと＝自分の気持ちの整理

これらの書き込みは、短時間の内に完了する場合も、２～３日かけて、やりとりされる場合もあった。いずれも、応援隊が中心になって書き込みがされたが、参加登録をしている人たちからの書き込みも当然あり、また、これらのやりとりを読むだけの人も圧倒的に多いことは、記録されるクリック数が一日あたり3000 回に上ることから予測される。

終了時の参加者へのアンケートより

お気に入りのルームと、参加して良かった理由についての自由記述

【世代】（性別）［一番下の子どもの年齢・月齢］

【20】（女）［1］●知らない方とお話が出来た

【30】（女）［2］●いろいろなママパパとコミュニケーションをとることができ、ためになった。

【40】（男）［12］●情報というより、子育てをしている方たちの考えを知ることができたと思う。

【20】（女）［1］●おしゃべり cafe　世代の違うママさんたちとおしゃべりできるし、子育て相談もできるから。宮崎限定でセキュリティもしっかりしているので、おかしな人が入ってこないので安心してしゃべれる・お父さんのたまり場　お父さんからみた子育ては興味があったし、料理コーナーがとても役にたった。

【20】（女）［1］●お父さんの育児についての日記はとても考えさせられました。もっと育児関係のふみこんだ情報がほしかった。（育児サークルの紹介や保育園情報（生の声）など）

【20】（女）［1］●温泉でも、子供を連れて行っていい事や、育成牧場と言う新しい公園情報などの話もママさんたちから聞けて、よかったと思う。温泉情報がもう少し詳しく、そしてこれからも見れると嬉しい。食事施設なんかの情報も欲しかった。

【20】（女）［1］●子供と遊べる場所の情報や、皆さんが子供とどういう風にどんな場所で遊んでいるのかが知りたかったまた、子供を連れて行くのも大丈夫である場所などを知りたかった。

【20】（女）［1］●部屋の鍵をかけられて、外に締め出された事がある・・・というような話題は、これから自分の子供にやられるかもしれないので参考になった。

【20】（男）［0.3］●時期もあり、クリスマスの絵本。結果的には参加しなかったけれど体操教室情報。KURO さんの育児日記＆料理。

【30】（女）［1］●これ！と絞るのが難しいくらい、たくさんの情報を得ることができました。絵本のコーナーでは、たくさんの絵本を知ることができたし、情報マーケットではイベント情報が知れてためになったし、遊びのコーナーでは子供との遊び方をたくさん学びました。「おしゃべりカフェ」や「お父さんのたまり場」の掲示板ではおしゃべりの生の声の中からたくさんの子育てヒントをもらいました。

【30】（女）［2］●利用された方のほとんどが宮崎のママパパであったことで、様々なママパパがいらして、それぞれ、悩んだり楽しんだりしながら子育てをしていることをリアルに感じることができました。また、ネット上で「子育てサークル」的な活動をしておられることがわかったことも収穫でした。

【30】（女）［3］●それぞれのルームの内容が充実していて、まるで絵本を開くような気分でした。人の子育ての話、パパの話、お隣の絵本事情はとても楽しく拝見させていただきました。

【30】（女）［5］●いろんな人の話を見ることが出来た。それから、もう少し期間が長くてもいいのでは・・と思ったし、最初の登録がとても面倒だった。（変な書き込みを無くす為だとしても、登録する内容が多すぎる気がする。あれで見るのをやめる人もいるのでは？）

【40】（女）［4］●まず絵本について絵本好きな人の多さとその思い。木城えほんの郷を中心にすえて展開して行きましたが宮崎という地域に根ざす絵本文化を紹介されたり家庭文庫などの活動を知る機会。宮崎で活動する女性の人生の経験談。父親の家庭に対する考えを知る機会。子育ての悩みを話し合える場所の提供。

【30】（女）［3］●私も絵本が好きなのですが、普段忙しくて絵本仲間とあったりする時間がないのです。そんな中、絵本の情報をたくさん仕入れることができて幸せでした。まだまだたくさんありますが、特に私自身が参考になったページでした。手塚さんの講座もとってもよかった。ぜひ継続すべきなのでは？と思っています。

ルームマネージャーの感想

■小学生の頃からパソコンに興味があったという、2 歳の子どもを育てている専業主婦 M さん（26 歳）は、ヴィレッジでは「おしゃべりカフェ」の応援隊としてかかわった。

「大変だったけど、出会いがすごくプラスになった」。ヴィレッジにかかわる以前は、「Tearoom」（仮名）というお母さんが運営しているサイトに積極的に関わっていた M さんは、ヴィレッジとの違いを「子どもの年も同じ、同世代のお母さんたち」とだけ話していたが、いろんな年齢の子どもを持つお母さんたちと話せ、勉強になることが多く、良き先輩に出会えた感じがすると感想をいう。

■個人サイトと mamapapa ヴィレッジの違いについては、「個人サイトとは違って、皆が対等な立場で話せる。個人のサイトは、その管理者と仲がいいという感じ。私たち 1 段階がサポーターとすると、最近入ってきた人たちはもう 5 段階目みたいなすごい人数がいるから立場によって、距離感がある」

だが、「ヴィレッジは対等にできる。だれと仲がいいからではなく、私という個人、1 歳何ヶ月の子どもを持つ、何歳の私」という実感を述べた。

M さんは、mamapapa ヴィレッジには「ただ楽しんで遊べる友達のほかに、もうちょっと自分と子育て観が合う人がいないか、新しい出会いを」求めた。「子育てに関すること、習い事のこと、幼稚園のこと、自分がこれからどうすればいいのか」に対して助言を期待し、「普通に生活してたら出会えないような方たち」と出会えたと評価する。

■一方大変だった点に関しては、「毎日見るのも楽しいんだけど、やっぱり、応援隊として毎日毎日見るということ」だった。「自分の性格もあって適当に出来なくて、すぐ返事しなくてはと思って」いたというが、これは、応援隊に求めたことでもある。その結果、「『おしゃべりカフェ』に行けば誰かがいる空気があって、“こんなこと書いても、あの人達だったら何とか返事をしてくれるだろうなと思ったよ”」という評価を得ている。

この点に関して、やはり「おしゃべりカフェ」の応援隊を担当し、1 歳半の子どもを育てている専業主婦 Y さん（34 歳）は、「これが仕事だったら、すごいすばらしい仕事だと思う。普通の仕事だと子どもを預けてしなくちゃいけないですけど、子どもも一緒にいて仕事に関われて、お金も入ってくるというのは、子育て中のママにとってはすごく理想」だと、感想を述べた。

■会員制について、Y さんは、「セキュリティーをしっかりするという意味ではいいと思う。けど、“自分の個人情報を書くのは嫌だわ”っていう声も聞きました。でも、そこがいいところだという情報が知れ渡れば、みんな気軽に登録すると思う」。安全がしっかり守られると言うことを、はっきり伝えることが課題となる。

■今後の運用について、

「行政もいいけど、ほんとにママさんが知りたいことを書けないかな」と感じている。個人サイトでは、自分の知っている情報を素直に書けたが、ヴィレッジでさえもスタッフとして関わっていると、どこまで答えていいのか迷った」という。パブリックな情報と、オフィシャルな情報の線引き、表現についてのルールについて、課題が残る。「マイナスの情報もお母さんとしてはすごく知りたいんです。産婦人科選びにしても何にしても、実際は本音が聞きたい」という思いを解決していくことが必要だろう。

■始まるまでの準備に関わった主任児童委員をしている専業主婦 F さんは、「お母さんがヴイレッジの掲示板やチャットで会話をしていると、お父さんがだんだん近づいて、読んでいた」という言葉を聞いている。いままでは、「お母さんが辛いという話をどこかに相談に行って、“こう言われた”」と、いう話を聞く関係だったお父さんが、「お母さんが楽しんでいるところを実際に見て、何が楽しいんだろう。逆にお母さんが苦しむのは何なんだろうというのを見てもらえた」それは子育てをしている時、「お母さんを手伝う」のではなくて、お父さんも一緒にできるということにつながると感じたという。

■ IT の専門家で、子育て中のお父さん G さん（41 歳）は、『お父さんのたまり場』を担当した。
「仕事でサイトを作ったことはあるど、ネット上のコミュニティーに自分が参加したのは初めてだったので、すごく新鮮だった」と感想を述べる。

また、運用について専門家の見地から「実際に応援隊をサポートする仕組みや、我々が作っていくうえで色々な問題にぶち当たった時に、それを解決する仕組みを最初に作れていたというのがすごく良かった。その時点での最高責任者は誰かということが常時分かっていたということ、参加者には見えない「戦略室」の掲示板で、実際に行き詰ったり悩みがあったときに、もしくはこうして欲しいということがあった時に、それを具体的にスタッフ、関係者だけの掲示板でやり取りが出来た、ということはみんなの安心感につながって、モチベーションの維持につながったということが、運用がうまくいったポイントだ」と評価した。

■会員制に関しては、良かったと評価しながらも、もう少しオープンにしてもよっかたのではないかと、次のように解説しくれた。「会員にならなければ見られない部分が多すぎた。誘導の部分でこんな情報が見られるとか、こんなやり取りをやっているんだというところをある程度見せて、発言についてはメンバーじゃないと発言できない、というやり方の方が取り込める」という見解であった。

また、「三鷹の同じようなサイトは、会員制ではない。中を覗いて見ると、会員制でのやり取りのほうが、内容がある気がする。そこでやり取りしている情報を、皆にみてもらうことに意味があるかもしれない。何人が 1 つの話題でつながれるか、その濃い内容を見てもらうということが重要」で、そこが企画次第だという。この点は、今後のこうした事業を企画する際に、充分に吟味する必要があると思われる。

■ニーズについてどのように実感したかを尋ねると、「十分応えられたと思います。ニーズは最初にはっきりしたものではなかった。やっていく上で、こういうニーズがある、ということが見えてきたものが多い。やっぱり最初は不安でスタートしたものです。どういう相談を持っているか、どういう悩みをかかえているかということが見えてきたのは、やっていく中からでした。逆に言えば、それがニーズだと言える。そういうニーズに対して、なんらかの成果を返してあげるのが応援隊の役割だった。その成果の現れ方が特徴的で、いいものだった」と印象を述べた。例えば「1 つの悩みにしても、それを否定するものではな

くて、すごく肯定して励ましてくれるような内容があったので、そのニーズがニーズとして成立して、良い結果が出た。このニーズに対して、このシステムが役に立ったと、そこで認識できた」。また、そうした現れ方を多くの人が共有することで、他のニーズや悩みも表出されていくのを感じられたという。サイトの運営をしていく中でニーズが掘り起こされ、ニーズが確定した。ニーズに応えられたかという問いには、「ニーズを掘り起こして、ニーズに応えられるシステムであることが確認できた」と評価した。

「今回、ネット上の特性ということで分析してみるとその場で答えるというのではなく、いったん自分の中で咀嚼し、相手を思った言葉で返してあげるというのがすごく大きな特徴ですね。負の悩みを抱えている人に対して、どういう対応をしたらその人が立ち直れるのか、その人が安心するかということを考えられたというのは、ある意味、哲学的なものも含んだ時間だったなという気がします。誰かの悩みがネットに載った瞬間に、皆が受けとめて、考えているというのが見えるようでした。同じ場にいて、ワイワイやるのではなくて、すっとそれを受け止め、一番良いボールを返すということを考えるという、そういう特徴がネットにあることが分かっていても、こういう風に生かされる」ということを再認識できたと評価した。

■今後の展開については、「ぜひ何らかの形で継続していくべきだなと思う。応援隊のお母さんたちとも話たんですが、こういうニーズがあるからこそ、個人でもこういうサービスを立ち上げようと思う人がいる。にもかかわらず、継続できないんですよね。その人のモチベーションが続く限りでないとできないから。

でもこういうサービスが世の中にあって、対象者とか参加者の世代がどんどん変わるにしても、それを受け止めるところがある必要があるし、そういうところがあるとノウハウが蓄積されていって、その場限りでないコミュニティのサービスになっていく気がします。そのことが分かった以上は何らかの形で続けていく必要があると思う」と、その必要性を実感した上で、展望する。

かつて自分が子育てをしているときに必要にかられて、仲間づくりのサイトを創った経験のある、H さん（38 歳）は、「やはり子育てをしていると 、インターネットというツールはすごく有効であるので、ますます利用するママも増えていくと思います。個人的にも、継続するにしても、別につくるにしても応援したいですね。これで終ってしまうことは絶対ないように」と今後の展開を強く望む。

■また、子育ての個人サイトとの違いについては、「応援隊の子育ての経験があってベテランの方の意見は、いい意味で予想しないものだった。現役の小さい子どもを持っているお母さんからは、とても出てこないような深い、視点が違うところからの意見が」インパクトがあり、ハッとさせられたという。

■経済的にも時間的にも追い詰められてる状況の親に対しても「つい子どもに手を出してしまう、そういう状況がずっと続いてから、ちょっと話してくれることがあるかもしれない。けど、相談してもいけないことは自分が一番よく分かっていて、相談すると自分が怒られてしまうとか、悪いのは自分」ということがわかっているだけにオープンな相談は難しいのではないかと予測する。単に子どもに問題があるケースと異なり、自分に非があることを人に知らせるというのは難しいだろうから、「いいんだよ、がんばってるね」と言って貰えるような場としても、可能性があるのではないかと。